

## 授業方法について独自に工夫していること 【創造科学系】

おおよそ毎時間、ワークシートを用意し、思考を促すように課題を与えている。また、指導現場のビデオ映像を用意し、運動指導の課題を理解してもらうように努力している。

子どもたちを教える指導実習を取り入れている

体育の運動領域は教科書がないため、学習指導要領及び解説を参考にしている。ただし、運動教材を読んでもなかなか授業づくりのイメージがもてないと考えて、3つの工夫としている(M1とC I)。

① 事前に次回の内容に該当する領域の体育映像を視聴してくる(Youtubeの文科省デジタル教材)

② 授業では、担当者が①から事前に考案した20分の運動教材を発表し、意見交換する。

③ ②での問題点等を整理して、具体的な打開策となるアイデア(教材や授業の進め方等)として、授業映像を視聴する

教職実践演習では、学生が直面した教職の具体的事例を取り上げている(E)。

教員になった時、実際に行う評価の基準について具体例を出して授業を進めたこと。

疑問で終わる授業

本授業では、まず学生のみなさんが音楽を体験し、自分自身が音楽を感じてから、音楽の要素や仕組みを理論的にも理解できるように授業展開を工夫しました。その音楽体験を通して、指導者として授業をする際のアプローチの方法・授業の流れ・学習指導要領との関連・児童への配慮の仕方・指導上の留意点などを学ぶことができるようにしました。体験によるアクティブラーニングを行う中で活動形態をねらいや内容によって変化させたり、音楽を感じるために動きを使った活動を取り入れたりすることで、様々な方向性からの授業展開や、創意工夫する必要性や意義も感じてもらえるようにしました。その内容や展開方法、そこから得た自分自身の気づきを毎回振り返りシートに記入し、作成することにより、体験を言語化し、指導案作成や現場での指導へ生かすことができるようにしました。また、疑問点や質問などもシートのやり取りをすることで解決しやすいようにいたしました。その他、音楽という科目の特徴や柔軟性を知り、他教科との連携や学校生活全体への取り組みにも音楽が幅広く応用できる可能性を知ること、現場での実践に役立ててもらいたいと考えました。

毎時、レジュメ、資料等を配布し、内容を確認できるようにしています。

出席確認のため、講義の感想や質問をコメント用紙に記入し提出してもらい、次回の講義で対応する様にしています。

グループワークを中心に授業を進めた。授業の終わりに自己評価と振り返りを書く。また、積極的に取り組んだことをアピールポイントとして記入する。各グループの班長を決めて、学生主体の学びとなるように課題を出した。

学生の主体的活動を多く取り入れる

現場実践場面のVTRを適宜使用している。

学生から提出される毎時間のミニレポートを評価情報と授業改善のための情報として用いている。

競技経験を活かした内容を、学生の視点で消化できるように工夫して臨んだ。運動の成功例と失敗例を経験させる等、学生にとって新たな知見になり得る部分への理解を深められるよう工夫した。また、グループワークを多く取り入れ、学生の自発的な活動及び学習意欲を喚起できるよう工夫した。

・屋外に出て自然に触れながら素材を収集し、制作することで、身の回りにある材料について考える機会を作っている。  
・グループでの共同制作や、作品についての講評を相互にし合うなどして、コミュニケーション能力や気持ち・感想等を言語化する能力の向上を目指している。

グループによる学習を多く取り入れながら授業を組み立て、学生が主体的に学べるように努めています。

学生との対話を基本にしている。これからの体育は、答えがないものとして捉えており、多様な視点から議論ができるようにしている。

個人の演奏技術に合わせて弾く曲を選択させている。

できるだけ学生が興味をもてるような教材づくりの作成に努めている。  
また、学生が自分で調べたり、考えることができるように課題を与え、また、それぞれ発表をするような授業にしている。

中等教員養成課程美術専攻用の授業ではあるが、造形文化コースの学生と併せて授業を行った。  
中学校美術で想定される題材について、受講者一人ひとりが題材や指導方法を工夫しながら、他の受講者を中学生に見立てて模擬授業を行うようにさせた。受講生の指導教員の専門がデザイン、ガラス、彫金、美術史、美術教育など多岐にわたるため、受講生が取り扱った題材もバラエティ豊かで楽しい内容の授業が見られた。  
受講生には、各自が行う授業の指導案と評価方法を模擬授業前に提出させ、記載内容及び、模擬授業について指導した。それぞれの模擬授業に対する他の受講生からのコメントを授業者に渡すことで、改善点を見いだすヒントが得られるように工夫した。

将来、教員になられたときに役立つように、課題解決的学習で、「主体的対話的な深い学び」を講義の中で体感できるように、授業を組んでいます。  
実物をなるべく多く用意し、体験を通し実感を伴って学んでいただけるように準備しています。  
講義形式だけではなく、まずは自分の考えをもった上で、ペアやグループ学習を多く取り入れ、学び合う学習のよさを体感していただくようにしています。

基本的な小学校の音楽授業における歌唱指導法について発声法、歌唱法について説明(講義)をしたのち、グループに分け、グループごとに課題曲を与え、他の学生を小学生とみなして、課題曲の授業を行わせて、それに関して指導している。